

..... 会 告

秋季講演会のお知らせ

日 時：2003年10月25日(土)14:00～15:30

会 場：東京地学協会講堂

講 演：久保純子(早稲田大学)「東京低地の地形とその変遷」

武蔵野台地・下総台地・大宮大地に囲まれた東京低地は、利根川のデルタとして完新世に形成され、歴史時代にも河川や海岸線の変化が続いた。しかし、歴史時代の地形の変化は史料が少なく不明な点が多かった。そこで、低地の微地形を手がかりとして歴史時代の河川・海岸線などの地形変化を求め、時代ごとの古地理の復元を試みた。

地学を楽しむ会「東京低地の地形と歴史」

東京地学協会では、地学の普及を目的として、一般の方々を対象とした講演会・見学会などを開催しております。本年は見学会を下記のような内容で開催することとなりましたので、お誘い合わせの上ご参加ください。中学生・高校生の参加も可能です。

開 催 日：2003年11月2日(日)

10:00 集合(葛飾区郷土と天文の博物館)～昼食(博物館または江戸川河川敷)～16:00 頃解散(柴又)

見学内容：東京低地がどのように形成され、歴史時代を通じてどのような変化があったか、実際に現地を歩いて見学します。見学予定地は 葛飾区郷土と天文の博物館と 柴又帝釈天付近です。博物館では東京低地の成り立ちや歴史に関する展示を見学し、その後柴又へ移動し、帝釈天、八幡神社古墳、帝釈天墓地(天明浅間山災害供養碑)、江戸川(矢切の渡しとスーパー堤防)などを見学します。

案 内 者：久保純子(早稲田大学)

参加資格：地学に興味を持つ一般の方々(中・高生も含みます)および会員。

参 加 費：中・高生 300 円、一般 500 円(資料代、入館料など)、弁当および移動交通費(京成線お花茶屋～柴又)は各自でご用意ください。

定 員：50 名(先着順)

申し込み方法等：

10月17日(金)までに e-mail または、往復はがきで〔往信〕住所・氏名・年齢・連絡先電話番号を記入、〔返信〕連絡(返信)先宛名を記入し、協会事務局へ申し込んでください。協会から予約受付のお返事と必要事項のご連絡を差し上げます。

申込先：〒102 0084 千代田区二番町 12 2 東京地学協会「地学を楽しむ会」

e-mail: tokyogeo@geog.or.jp subject: 地学を楽しむ会

海外見学旅行「アメリカ西部の大峡谷に行く」のご案内
グランドキャニオン・隕石孔・デスパレー・サンアンドレアス断層・ローウェル天文台

アメリカ西部は、グランドキャニオンで代表されるように多くの国立公園があり、その美しい風景の中には5億年以上にもわたる地球史が秘められています。この見学旅行では、風景に秘められた地球史の解説を聞きながら、実際に自分の足で歩いてみます。またローウェル天文台での火星観望、アリゾナ隕石孔の見学を通して惑星としての地球を体験します。

企画主催：(社)東京地学協会

旅行主催：静鉄観光サービス(株)

対 象：地学に興味をもつ一般の人々

場 所：アメリカ西部(アリゾナ州・カリフォルニア州)

旅行日程：2003年11月1日(土)～8日(土)8日間

案 内 者：白尾元理(写真家・サイエンスライター)専門は火山・惑星地質学。

遠田晋次(産業技術総合研究所)専門は活断層。

添乗員も同行します。

募集人員：25名(最低実施人数10名)

費 用：265,000円(学生割引あり:3人部屋になることもあります。詳細はお問合わせください)

申込締切：9月30日(火)。定員になりましたら締め切らせていただきます。

申込書類の入手方法：静鉄観光サービス(株)へご請求ください。

またはホームページ<http://www.sts21.com/kaigai/chigaku.htm>からお申込ください。

(東京地学協会ホームページのニュース欄からリンクしています)

日 程：

- 1日目 成田空港発 フェニックス - ローウェル天文台にて火星, 月を観測。(フラッグスタッフ泊)
 - 2日目 アリゾナ隕石孔・サンセットクレーター(火山砕屑丘)を見学。隕石孔と火山との違いを観察します。(グランドキャニオン泊)
 - 3日目 グランドキャニオンの地層を観察しながら, インデアンポイントまで徒歩で下ります。同じ宿に連泊しますので, 時間を気にせず体力に合わせて降りる事ができます。(グランドキャニオン泊)
 - 4日目 午前, グランドキャニオンの各展望ポイントから地層の説明します。
午後, ラスベガスへ移動。(ラスベガス泊)
 - 5日目 終日デスパレー見学, デスパレーを横切る断層地形, 砂丘, 塩湖などの各ポイントでバスから降りて観察。(ラスベガス泊)
 - 6日目 朝サンフランシスコに移動し, サンアンドレアス断層の動きが見える場所を数箇所ご案内し観察していただきます。(サンフランシスコ泊)
 - 7日目 サンフランシスコ発 8日目成田空港着
- ・関空発のご希望については, ご相談に応じます。
 - ・札幌, 福岡 成田の割安追加料金もございます。

おもな見学地点：

ローウェル天文台

今年は火星大接近の年です。11月初旬は、最接近時8月27日に比べて、60%の視直径があり、まだまだ観測の好機です。今回は、あのローウェルが観測したのと同じ口径61cm望遠鏡で、火星と月を観望します。(一般の見学者と一緒に観望となります。曇天の場合には観望できません)。

アリゾナ隕石孔

約5万年前にできた直径1.3kmの衝突クレーターです。地球上で最も新鮮な衝突構造が残っており、E. シューメーカー博士によって世界で初めて衝突クレーターであることが証明されました。

サンセットクレーター

800年前にできた火山(砕屑丘)です。基底の直径はアリゾナ隕石孔と同じなので、隕石孔と火山との形態の違いがよくわかります。溶岩地形などを観察します。

グランドキャニオン

コロラド高原にある長さ500km、幅20kmの大峡谷です。今回は標高2091mの崖上から峡谷中間点標高1158mのインディアンポイントまでの標高差930m(谷底までの約半分)を実際に下って、地球の歴史を足で感じていただきます(悪天候時には中止することがあります)。

デスバレー

ラスベガスの西150kmにある断層谷です。中心部の標高は-87m、6月~9月は最高気温が40℃を越えるために団体バスは入ることができません。11月は最高気温24℃、最低気温9℃で、見学に最適な季節です。断層地形、砂漠地形、塩湖などを見学します。

サンアンドレアス断層

カリフォルニア州を北北西-南南東に走る長さ1000km以上の右横ずれ断層で、北アメリカプレートと太平洋プレートの境界をなすトランスフォーム断層です。今回は、サンフランシスコ近郊の断層変位のわかりやすい2か所(サンアンドレアス湖・ベアバレー周辺を予定)で観察します。



詳しい内容、見学地点の案内等は静鉄観光サービス(株)のホームページ <http://www.sts21.com/kaigai/chigaku.htm> をご覧ください。

旅行主催：静鉄観光サービス(株) 〒420 8509 静岡市追手町2-12 安藤ビル

Tel: 054 252 4194 [担当] 益田 豊 Fax: 054 251 2784

E-mail: y-masuda@sts21.com

地学クラブのお知らせ

・9月19日(金)14:00～17:00 第200回記念講演会 後掲案内参照

・11月20日(木)14:00～15:30

「タクラマカン砂漠における黄砂舞い上がりの観測」

三上正男(気象研究所)

日中共同風送ダストプロジェクト ADEC の一環として、2002 年春より中国タクラマカン砂漠南部の砂礫砂漠と砂砂漠で黄砂舞い上がり過程の観測を行っています。これまで実施した 2 回の集中観測では飛砂の飛散過程の詳細な観測に成功しました。来年春には黄砂粒子の舞い上がり過程の観測を行う予定です。講演では、プロジェクトの紹介、観測のねらいと概要、得られた成果のいくつかについて、現地写真を交えながら紹介致します。

・12月19日(金)15:30～17:00

「元禄地震 300 周年」

都司嘉宣(東京大学地震研究所)

講演後、年末懇談会が行われます。

地学クラブ第 200 回記念講演会および祝賀会

地学クラブは、1961 年 2 月 4 日から始められ、1975 年 4 月 12 日まで旧地学会館などの会場で 135 回行われました。地学会館が新築されるまでの間中断された後、第 1 回地学クラブは 1982 年 4 月 20 日に再開されました。今年 9 月に第 200 回目を迎えますので、記念行事として次の特別プログラムを計画しました。講演会は、通常 1 時間 30 分ですが今回は中休みを入れて 3 時間、二人の専門家からお話をうかがうとともに質疑・討論にも十分時間をとる予定です。会員以外の一般の方にも参加していただけるよう、申し込み方法をお知らせいたします。

地学クラブ第 200 回記念講演会

日時：2003 年(平成 15 年)9 月 19 日(金)14:00～17:00

場所：東京地学協会講堂

テーマ：地球の気候の過去、現在、未来

(1) 増田富士雄(京都大学大学院理学研究科):「地質時代の気候変動からみた現在」

現在の地球の気候は、人間活動による温暖化などの諸問題を抱えている。現在の気候がどのように成立してきたかを、さまざまな時間スケールでの変遷史として眺めてみると、現在の気候環境の特異さがみえてくる。地質時代の気候像を紹介し、現在の気候環境を再認識し、さらに、これからの古気候研究に求められることを考えてみる。

(2) 三上岳彦(東京都立大学大学院理学研究科):「過去 1000 年間の気候変動と 21 世紀の気候予測」

近年、地球温暖化問題に対する関心が高まっているが、将来の地球気候を的確に予測するには、人間活動の影響が少なかった過去の気候変動をできるだけ正確に把握することが重要である。講演では、14 世紀から 19 世紀に至る世界的な寒冷期として知られる「小氷期」を中心に、歴史時代の気候変動の実態を探るとともに、21 世紀の気候予測を試みる。

総合司会：町田 洋(東京都立大学名誉教授)

申し込み方法：

〔非会員〕講演会に参加をご希望の方は、往復はがきに氏名・住所・年齢・電話番号・職業を記入して、下記の（社）東京地学協会事務局にご連絡ください。申込締切：2003年9月10日（水）。
〔会 員〕いつもの通り、フリーにご出席ください。

地学クラブ第 200 回祝賀会

日 時：2003年（平成15年）9月19日（金）17:30～19:30

場 所：東京グリーンパレス

会 費：2,000円

申し込み方法（会員に限定）：

会員へのご案内は、通常の地学クラブ講演会のとおりと同じく郵便はがきおよびホームページによります。祝賀会への参加希望者は、9月10日（水）までに事務局へ申し込んでください。

祝賀会では、会員による器楽演奏（洋・和楽器の合奏）も行う予定です。

連絡先：〒102-0084 東京都千代田区二番町12-2 （社）東京地学協会事務局

Tel: 03 3261 0809 Fax: 3263 0257

E-mail: tokyogeo@geog.or.jp Home page: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tokyogeo/>